

慈善施設の養護実践**－福田会育児院にみる里子養育と施設養育－**

○ 鳥取短期大学 氏名 菅田 理一（会員番号 3416）

キーワード3つ：社会福祉史、里子養育、施設養育

1. 研究目的

明治期を代表する慈善事業施設の福田会育児院は1879（明治12）年の創立時から、里子養育の仕組みを整備していた。「明治十三年七月より十二月に至るまで育児の総員は男女合計二十一名内一名死亡し現員二十人内十五人は有志者の引受養育に属し院費に係るもの五人なり仍て別紙に其引受養育の氏名を掲載す」（「雑報」『明教新誌』1109号、1881（明治14）年2月10日、4-5頁というように、育児院の支出を抑えるため出来るだけ有志者が子どもを引受けるかたちであった。同育児院では、満3歳までの児童に里子養育、それ以降の年齢の児童に育児院内で施設養育を行うことになっていた。里子養育と施設養育を一体的に行う慈善施設は他にもみられるが、福田会育児院のものは最も早くに規定を設け、運用された。その実践内容は具体的にどのようなものであったのだろうか。ここに、里子養育の仕組みを地域でどのように実践するのが課題となっている。その前史を理解する視点から本研究を実施した。本報告では福田会育児院に残された史資料と月報等の記事を参照し、院児の養育内容を取りあげる。①院児名簿類、②『明教新誌』、③『福田会月報』を主に使用し養護実践を明らかにするよう努めた。

2. 研究の視点および方法

福田会育児院の院児名簿類に記録された事例について、『明教新誌』、『福田会月報』、その他同院所蔵資料、さらに新聞資料を参照し、個別の実践が実際にどのようなものであったのかを検討する。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理規程に基づいて行っており、福祉サービス利用者について述べる場合は個人が特定されないよう配慮した。なお、報告者と調査対象等はCOI関係にない。

4. 研究結果**（1）創立期の養護実践**

明教新誌は、Aという1歳児の父親が病死、続いて母親も貧窮ななか病死、親類は赤貧であり、それを見かねた地元の寺院の僧侶は「今川教正に紹介し福田会の養育を願はれしかば教正は其艱難を深く憐れみ直に本院へ届け出て之を許可せられたり」とし、その後、今川がAの住む地を巡教し、当地の福田会永続会友となっていた寺院に僧侶に依頼し「檀

家の中にて有志三名を随喜会友に撰挙せられたる中」に同地のBという人物が実子2人を亡くしていたので「育児院の男子一人を貰ひ受て嗣子となしたき旨の願ひ」がなされ、AはB夫婦の元へ行くことになり、同夫婦は「これぞ天の賜もの仏の後結縁下されたる者ならんとて手の舞ひ足の踏むを知らず喜び愛して育て居るよし」と報じ、さらに「嗚呼福田広済利生の功德又それ此の如く大なるか」と言う（「雑報」『明教新誌』1171号、1881（明治14）年6月22日、4-5頁）。遠方からの福田会への乳児の入院打診であり、会友のつながりから当該地域で養育する方法を模索した。

（2）里子養育の実態

福田会育児院規則では、乳児は「乳母」へ有償で委託し満3歳まで養育してもらう仕組みを規定していた。1881（明治14）年11月には「入院の赤児已に百名に余り乳母の乏しきに困苦することとなるが世の乳母口入所へ托するときは往々惨酷無慈愛の婦人ありて之がため発病死去に至るもあれば府下各宗へ依頼して檀中のうち赤児の死して乳の余りある人等を説諭し乳育料衣服料周旋車代等を本院にて支出し手厚く養育を致させたき事」（「雑報」『明教新誌』1242号、1881（明治14）年11月16日、3頁）と報じられ、里子を安全に養育できない事態となっていた。そのため対策として、乳母の選定を慎重に行うこと、委託料を増加させることにした。

1882（明治15）年には「今川貞山の建議により府下及び諸府県各宗へ一枚摺の書を作り乳母周旋及念誦紙諸物品の恵施を勧誘することを依頼せり」（「雑報」『明教新誌』1282号、1882（明治15）年2月12日、5頁）と報じられ、乳母の調整が課題となっていた。

福田会本院から20kmほど離れた農村地域の横山三省、横山謙次郎、横山巖が歴代運営した横山医院は、明治後期以降、第二次世界大戦終戦期まで里子養育に深くかかわり約600名の児童の里親の斡旋等を行った。福田会は「里子取扱委員」として横山三省医師を任命していたが、それ以前は近隣の寺院の檀家のつながり等を活かし里子を斡旋していたと考えられる。しかし不具合が生じ横山医師へその役割を交代しその後の安定的な里子養育につながった。里子村で養育を担ったのは農家の里親であり本院と一体の体制で養護を担っていた。

5. 考 察

福田会育児院が養護実践を進めるためには、まず里子養育を安定させる必要があった。明治前半は乳母の斡旋に課題があった一方、明治後半には里子取扱委員が活動し効果をあげた。

〔付記〕本報告は、科学研究費助成事業・基盤研究（C）（課題「明治・大正期における福田会育児院の財政に占める寄付の全容と寄付文化に関する研究」（課題番号23K01824）、及び「仏教系の育児事業等における里親制度の成立に関する総合的な歴史研究」（課題番号19K02289）の助成を受けた研究の成果の一部である。